

このニュースレターは、EPA(経済連携協定)及び、外国人看護師・介護福祉士に関する全国ニュースをダイジェストでまとめたものです。

○国試合格者介護福祉士5.8万人 合格率7割切る (2020/4/17 シルバー産業新聞)

福祉・介護関連国家試験結果

職種	2019年			2020年		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
社会福祉士	41,639	12,456	29.9%	39,620	11,612	29.3%
介護福祉士	94,610	69,736	73.7%	84,032	58,745	69.9%
精神保健福祉士	6,779	4,251	62.7%	6,633	4,119	62.1%
理学療法士	12,605	10,809	85.8%	12,283	10,608	86.4%
作業療法士	6,358	4,531	71.3%	6,352	5,548	87.3%
言語聴覚士	2,367	1,630	68.9%	2,486	1,626	65.4%
医師	10,146	9,029	89.0%	10,140	9,341	92.1%
歯科医師	3,232	2,059	63.7%	3,211	2,107	65.6%
薬剤師	14,376	10,194	70.9%	14,311	9,958	69.6%
保健師	8,376	6,852	81.8%	8,233	7,537	91.5%
看護師	63,603	56,767	89.3%	65,569	58,514	89.2%
助産師	2,105	2,096	99.6%	2,105	2,093	99.4%
義肢装具士	263	235	89.4%	208	164	78.8%
歯科衛生士	7,207	6,934	96.2%	7,216	6,808	94.3%
あん摩マッサージ指圧師	1,498	1,300	86.8%	1,432	1,213	84.7%
柔道整復師	6,164	4,054	65.8%	5,270	3,401	64.5%
管理栄養士	17,864	10,796	60.4%	15,943	9,874	61.9%

福祉・介護関連資格の国家試験の合格者が、順次発表された。前年過去最高の合格率73.7%で注目された介護福祉士は、受験者8万4032人(前年比1万578人減)、合格者は5万8745人(同1万991人)で、合格率は69.9%と4年ぶりに7割を切った。

合格者の内訳は、男性1万7514人(29.6%)、女性4万1231人(70.4%)で、男女の比率は前年と変わらなかった。

受験資格別では「老人福祉施設の介護職員等」が53.3%で最も多く、次いで「訪問介護員等」(14.5%)、「介護福祉士養成施設」(8.2%)、「障害者福祉施設の介護職員等」(6.9%)、「医療機関の看護補助者等」(6.3%)、「介護老人保健施設・介護医療院の介護職員等」(6.0%)、「福祉系高校(専攻科含む)」(3.9%)の順だった。

なお、EPA介護福祉士候補者の合格者(初受験・再受験合わせて)は、インドネシア107人(合格率36.5%)、フィリピン92人(同29.4%)で、前々年初受験で合格率93.7%、前年87.7%を記録したベトナムは今回も152人が受験し138人が合格。合格率は90.8%を記録した。今回も初受験者では92.2%の合格率となった。ベトナムは訪日前に12カ月の日本語研修を行いN3(日常的な場面で使われる

日本語をある程度理解できる)以上の能力をつけて来日しているが、それだけが高合格率の原因とは思えないような頑張りぶりだ。

社会福祉士は、合格者数が1万1612人で、合格率は29.3%だった。精神保健福祉士は合格者数が419人で、合格率は52.1%で例年と大きな変動はなかったが、どちらも受験者、合格者ともに微減傾向にある。

看護師は、6万5569人が受験して、5万8514人が合格し、合格率は89.2%で、ほぼ例年通り。

○EPA 外国人看護師・介護福祉士候補者の滞在期間延長の条件発表(2020/3/27 アセアンポータル)

日本の厚生労働省は、経済連携協定(EPA)に基づいて来日しているインドネシア・フィリピン・ベトナムの外国人看護師・介護福祉士候補者の、滞在期間延長の条件となる国家試験の得点基準などを公表した。

日本政府では、経済連携協定(EPA)に基づいてインドネシア・フィリピン・ベトナムから外国人看護師・介護福祉士候補者を受入れている。これらの外国人看護師・介護福祉士候補者は、先日に実施された「第109回看護師国家試験」と「第32回介護福祉士国家試験」を受験していた。これらの試験を受けて合格しなかった人たちの滞在期間延長の条件となる国家試験の得点基準と滞在期間の延長に関する手続き・スケジュールが、厚生労働省から発表された。

平成29年度入国のEPA看護師候補者の滞在期間延長の条件となる「第109回看護師国家試験」の得点基準は、合格基準点の5割以上の得点となる97点(必修問題の総点数が48点の場合)、または98点(必修問題の総点数が49~50点の場合)となった。

平成28年度入国のEPA介護福祉士候補者の滞在期間延長の条件となる「第32回介護福祉士国家試験」の得点基準は、合格基準点(77点)の5割以上の得点となる39点となった。

○日本の介護福祉士国家試験でベトナム人 138 人が合格、合格率 90.8% (2020/3/31 Vletjo ベトナムニュース)

日本の厚生労働省が発表した第 32 回介護福祉士国家試験結果によると、経済連携協定(EPA)に基づき日本が受け入れた介護福祉士候補生の中から、ベトナム人 138 人が新たに介護福祉士国家試験に合格した。これにより、初年の 2018 年から 2020 年までのベトナム人の累計合格者数は 320 人となった。

今年のベトナム人の受験者数は 152 人(初受験 141 人、再受験 11 人)。合格者 138 人のうち 130 人が初受験(合格率 92.2%)、8 人が再受験(同 72.7%)だった。

2018 年には、ベトナム人介護福祉士候補第 1 期生として受験した 89 人が合格を果たし、合格率 93.7%の快挙を成し遂げた。2019 年には 93 人が新たに合格している。

第 32 回介護福祉士国家試験の全体の受験者数は 8 万 4032 人、合格者数は 5 万 8745 人で、合格率は 69.9% だった。

EPA(ベトナム、インドネシア、フィリピン)全体の受験者数は 758 人、合格者数は 337 人、合格率は 44.5%。合格者を国籍別に見ると、ベトナムが 138 人、インドネシアが 107 人、フィリピンが 92 人となっている。合格率はインドネシアが 36.5%、フィリピンが 29.4%で、ベトナムは 90.8%と最も高かった。

なお、日本と同 3 か国の EPA では、看護師・介護福祉士国家資格の取得を目的として看護師候補者は最大 3 年間、介護福祉士候補者は最大 4 年間の日本入国・滞在を認めている。ベトナムについては 2014 年度から候補者の受け入れを行っており、看護師国家試験では初年の 2015 年から 2020 年までに累計 89 人が合格している。

○受け入れ制限、4分の1以上が経験 介護人材「不足」7割 IRCが県内調査(2020/4/4 愛媛新聞)

いよぎん地域経済研究センター(IRC、松山市)が 3 日までに発表した県内介護業界調査によると、7 割の事業所が人手不足を感じ、4 分の 1 以上の事業所が人手不足による利用者の受け入れ制限を経験している。

介護人材の過不足状況では、「やや不足気味」が 49.9%、「とても不足している」が 21.1%だった。人手不足が原因で利用者の受け入れを「現在制限している」は 11.7%、「過去に制限したことがあるが、現在していない」は 15.0%。IRCは「人手不足の深刻さの一端を示す結果」としている。

人手不足への対策としては高齢者の雇用促進を挙げる事業所が多く、全介護職員に占める 60 歳以上の割合は、「20%以上」と答えた事業所が 3 分の 1 以上に上った。一方、30 歳未満の割合は、「いない」と「5%未満」がそれぞれ 3 割を超え、「20%以上」は 1 割に満たず、若年層の確保が進んでいない実態が明らかになった。

外国人の介護人材の受け入れでは、「受け入れている」が 1 割弱、「今後受け入れる予定がある」が 1 割超。「受け入れていないが検討している」を合わせると、半数近くが何らかの動きを見せている。

すでに外国人材を受け入れている事業者に満足度を聞くと、「大いに満足している」が約 3 割、「おおむね満足している」が約 6 割で、高い割合だった。

IRCは外国人の受け入れに関し「不安を感じる事業所は多いが、実際に受け入れている事業者からの評価は高く、今後も拡大する」とみており、すでに受け入れている事例に学び、受け入れ環境を整備することが大切としている。

調査は 1 月、県内 1092 の介護事業所を対象に郵送で実施し、457 事業所(41.8%)から有効回答を得た。

一般社団法人
外国人看護師・介護福祉士支援協議会

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-12-1
VORT 半蔵門ビル 6 階
TEL : 03-6666-8163 FAX : 03-3221-4717
E-mail : zen-kangokaigo@jiaec.jp

担当：伊藤、小中

©一般社団法人

外国人看護師・介護福祉士支援協議会
無断複製・転載を禁ず